

六^あ連^ん銭^せ

第53号
令和7年6月発行



狩衣

企画展 「真田家の家紋」

令和7年4月16日(水)～9月15日(月・祝)

掲載内容

- ◆企画展「真田家の家紋」
- ◆真田家伝来の大名道具
- ◆活動報告 重要文化財 旧横田家住宅公開再開
- ◆展示スケジュール
- ◆学芸レポート「真田邸襖・壁紙の下張文書 裏打ち作業」
- ◆学芸レポート「貝合わせをつくって、遊んでみよう！」
- ◆次回展示 新収蔵資料展
特別公開 長國寺所蔵 岩佐又兵衛筆「堀江物語絵巻」展

長野市デジタルミュージアム

ながの 好奇心の森

長野市デジタルミュージアム「ながの好奇心の森」では、真田宝物館をはじめとする長野市の文化財データベースを公開しています。あわせて高画質な画像もご覧いただけます。



ながの好奇心の森へはコチラから

学芸レポート 1

真田邸襖・壁紙の下張文書 裏打ち作業

真田宝物館ではこれまで松代文化財ボランティアの会のみなさんと協働し、真田邸の襖の下張り文書の整理・調査を行ってきました。現在、襖のほか、壁や天井の紙に使われた下張り文書についても作業を進めています。

なかには破れた状態の文書も出てきます。これ以上の破損を防ぎ補強するため、文書を裏打ちする必要があります。

裏打ち用の和紙に皺が寄らないよう糊を付け、破れた文書を貼り合わせる等、緊張する作業が続きましたが、最後まで集中して多くの文書を裏打ちすることができました。



文書に和紙を裏打ち



補助の不織布を外し乾かします

学芸レポート 2

貝合わせをつくって、遊んでみよう！

3月29日(土)、企画展「松代ゆかりのおひなさま」のワークショップを松代文化財ボランティアの会のみなさんと開催し、6名の方にご参加いただきました。

はまぐりの貝に好きな絵や模様を切り張りするなど、一人一人個性溢れる貝合わせが出来上がりました。また、参加者全員で実際に貝合わせを遊んでみました。神経衰弱ゲームに少し似た遊びですが、合わせた貝を開いて実際に絵柄が揃うと歓声があがり、とても盛り上がりしました。



貝合わせをつくる



貝合わせで遊ぶ

次回展示 令和7年9月17日(水)～12月15日(月)

新収蔵資料展

近年、新たに当館所蔵となった華麗な真田家の大名道具や松代藩士ゆかりの作品を初公開します。

特別公開

同時開催

長國寺所蔵 岩佐又兵衛筆「堀江物語絵巻」展

新たに長野市有形文化財に指定された松代町長國寺所蔵「堀江物語絵巻」の各場面を3期に分けて展示します。

「堀江物語」は下野の豪族である堀江三郎の子・太郎が、非業の死を遂げた両親の敵を討ち、家を再興するまでの物語で、本絵巻は諸家分蔵のうちの一巻であり、物語のクライマックスにあたる末尾に該当します。金銀をふんだんにつかった極彩色で描かれ、驚異的な細密描写がひととき目を引く美しい作品です。



火事頭巾



真田宝物館
The Sanada Treasures Museum



(長野市観光文化部 文化財課 松代文化施設等管理事務所)

〒381-1231 長野県長野市松代町松代4-1 TEL.026-278-2801
HP <http://www.sanadahoumotsukan.com>

真田宝物館だより 六連銭53号
発行 真田宝物館 令和7年6月
印刷 有限会社アツッロ

「真田家の家紋」

令和七年四月十六日(水)～九月十五日(月・祝)

みなさんは「家紋」と聞くと、どんなものが浮かびますか？徳川將軍家の葵の御紋をご存じの方は多いと思いますが、例えば戦国大名の織田信長、豊臣秀吉、武田信玄、上杉謙信の家紋はわかりますか？真田家の家紋・六連銭(六文銭とも)は、こうした戦国時代の大スターたちの家紋と比べても、また、全国に存在した二五〇を超える江戸時代の大名家の中でも特によく知られた家紋だといえるのではないのでしょうか。

そもそも、武家の家紋のはじまりは、鎌倉時代初期の旗指物の「しるし」です。一族郎党が団結して戦う時、一家のあるじの所在を示し、団結の象徴として、また敵・味方の識別として用いられました。戦国時代には集団密集の戦いが主となり、武功の確認が必要となったこともあって、各自が旗指物を背負い、遠目にも目立つ武装をするため、多種多様な家紋がシンボルとして使われるようになりました。

合戦がなくなった江戸時代は、大名行列の識別のために行列が携えている挟箱や長持などの道具に家紋が入れられ、目印となりました。家紋を多く持つことが名家であるという風潮も生まれたともいい、武家は主に使う家紋(定紋)のほかにくつかの替紋を持つたのです。

真田家の定紋は六連銭紋で、替紋は結雁金紋、洲浜紋、割洲浜紋を使っていました。なぜ使いはじめたのかは様々な説があり、確かなことはわかりません。六連銭紋のデザインは、仏教の六道銭からきているともいわれています。六道とは、生き物が生前の行いによって生死をくりかえす地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六つの世界をいい、死者があゝの世に旅立つ時に、三途の川の渡し賃として棺の中に入れ、地蔵尊に供えるのが六道銭です。真田家では一文銭を横に三枚ならべ、縦二段に配置したものを使用しています。

結雁金紋は渡り鳥の「雁」を圖案化したもので、源平合戦の際、水鳥に驚いた平家軍が戦わずして退いたことから、勝利を呼ぶ吉祥とされました。洲浜紋は、流水によって砂が積もってできた島の事で、これもおめでたい圖案とされています。割洲浜紋は洲浜紋を三つ頭合わせにしたものを円状に割った紋で、いずれも幸運を呼ぶ意味のあるものです。

家紋の使い分けについて明確な規定はわかりませんが、大きさや向き、微妙な違いや定紋と替紋の組み合わせなど、自由な部分も多かったようです。家紋の様々な使い方、意匠を楽しんでみましょう。



紺糸毛引威二枚銅具足(伝 3代藩主・真田幸道所用) 籠手部分

知れば知るほど
おもしろい!

真田家伝来の大名道具

「真田家の歴史」 黄八幡の旗

武田信玄から真田昌幸の弟・信尹に与えられたと伝えられる旗。もとは北条氏家臣・北条綱成の旗指物。元龜2年(1571)、駿河国深沢城を武田軍が攻め落とした際に、城を守っていた綱成がこの旗を残して逃亡した。その戦利品として武田家が持ち帰ったとされる。

展示期間 6月28日(土)～9月15日(月・祝)



展示期間 4月16日(水)～6月22日(日)

「大名道具Ⅰ」 ルーフル

銅製の拡声器。戊辰戦争で使用された指揮具の一つと考えられ、大隊に指示を出すときに使われた。全長107.5cmと大型で、口元部分は顔に密着しやすいように幅が広がっている。

「大名道具Ⅱ」 茶碗 銘若草

水戸藩主・徳川斉昭の製作した茶碗で、8代藩主・真田幸貫に贈られたもの。おさめられている箱の蓋裏には「朝露も おき所なき若草の はづかに萌ゆる色は見えつつ」という斉昭の歌が添えられている。



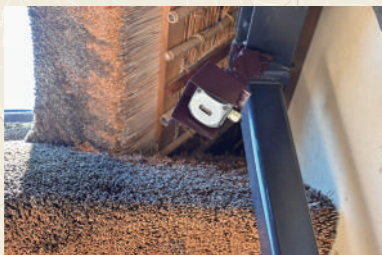
展示期間 4月16日(水)～6月22日(日)

活動報告

重要文化財 旧横田家住宅公開再開

令和5年秋より防災設備工事のため休館していた旧横田家住宅が、令和7年1月4日より公開を再開しました。自動放水銃や特殊消火器、軒下の炎感知器等のほか、地面や一部建物の下を掘り起こして、一見するとわからない箇所にも防災設備の埋設や改良が図られています。

設備を整えるとともに同月末には防災訓練も行いました。今後も保存と活用に取り組み、長く大切に後世へ伝えていきたいと思えます。



炎感知器



特殊消火器と消火栓



自動放水銃

今後の行事

藍の生葉染を体験してみよう!

日時 8月1日(金) 10:00～12:00
場所 旧横田家住宅
対象 小学生以下・定員15名



ワークショップ

新聞ちぎり絵を描いてみよう

日時 10月25日(土) 10:00～12:00
場所 真田宝物館内 真田わくわくルーム
対象 どなたでも



※詳しくは真田宝物館 HPをご確認ください。

真田宝物館
展示
スケジュール

令和7年

真田家の家紋

4月16日(水)～6月22日(日)



鼻紙台

館内消毒のため休館

6月23日(月)～27日(金)

真田家の家紋

6月28日(土)～9月15日(月・祝)

新収蔵資料展

9月17日(水)～
特別公開 長國寺所蔵 岩佐又兵衛筆「堀江物語絵巻」展



軍扇